

「オープン API のあり方に関する検討会」(第 7 回) 議事要旨

1. 日 時：平成 29 年 2 月 8 日 (水) 10 時 00 分 ～ 11 時 45 分
2. 議 題：API の仕様の標準化について
3. 議事内容：

※ 討議対象となっている、API の仕様の標準化に係る資料(以下「標準化案」という。)については、取りまとめが終わった段階で公表等を行う予定です。

【API の仕様の標準化について】

- オープン API の仕様の標準化は、日本の銀行界にとって 50 年ぶりくらいの大きな変革になるのではないかと考えている。現在の全銀システムで利用されている全銀フォーマットの為替電文は、実に 50 年近く使われてきたものだが、オープン API というインターネットと API を使った新しいかたちで、銀行システムへのアクセスへの道を開く、また、その標準を作るということは、大きな転換であり、大変歴史的な取組みであると思う。
- OpenID Foundation において OAuth2.0 の仕様の標準化が議論されていることも、タイミングとしてよい。「標準化案」においても、OpenID Foundation の Financial API グループ (FAPIWG) の取組みを考慮した仕組みとしてはどうか。もちろん、それぞれのサービス内容によって、FAPIWG の標準に準拠しないといけないもの、しなくてもよいものというのは当然あり、様々なバリエーションがあることは、この標準でも想定されていることだと思う。その点を踏まえて、Comply or Explain のような建付けとしておくことは、「標準化案」がコミュニケーションツールとして機能するうえで有益である。
- 英国において Open Banking Standard が公表されたとき、日本でも同じことができるだろうかと思ったが、今回、事務局から、それに負けないような提案をいただき、また、スピード感としても欧州の動きに負けないようなスピードで取り組まれていると思う。
- 電文仕様に関連する標準については、海外でもまだ決まっていない状況だと理解している。こうした動きを踏まえつつ、標準を決める部分と各企業の努力で補っていく部分とを組み合わせる進めていくことも一案ではないか。
- 「標準化案」は、開発原則から電文仕様にいたるまで、FinTech 企業としても非常に素晴らしい内容になっていると考えている。また、電文仕様標準についても、API の要求・応答メッセージ上の標準的な項目およびその定義等についてのみ定め、それ以外の仕様は、API での連携を目指す銀行と FinTech 企業とが互いに協議のうえ任意に定めることを前提とすること、および当面の範囲をまず残高照会、入出金明細、振込とすることについて、我々として

も納得感がある。電文仕様の標準化も含めて、今後の連携方法については、改めて相談させていただければと思っている。

- この度、銀行界と FinTech ベンチャーが連携してこうした検討を進めていることは、世の中が変わる中での新しいことへのチャレンジだと私は理解している。新しいことへのチャレンジをするときに、これだけ最高水準の方々が集まって、プロとしての善管注意義務を果たしたといえるような検討プロセスを踏んで議論されていることは大変喜ばしい。
- オープン API の取組みは、金融制度ワーキンググループで議論してきた制度とも表裏一体の取組みになる。できるだけ制度の方も整合性の取れるかたちで、あるいは、制度の議論の方とも整合性を取っていただくかたちで議論を進めていただくようお願いしたい。私共もスピード感をもって、作業、議論を進めていきたいと思っている。

【ユーザーへの周知】

- 本日参加されている FinTech 企業の中にも、最近積極的に広告を出され始めた企業がおられ、消費者の関心も高まっていると感じている。そうした中において、このように協働して色々な取組みを行っていることを消費者の方々にも伝える機会が必要なのではないかと思っている。消費者の方もチャレンジしていかなければ世の中についていけないという状況になってきているため、もし可能であれば、消費者に「これだけはわかっておいてほしい」、「これだけは気をつけてほしい」というようなメッセージを共同して出させていただくような機会があればよいと思う。
- 今回 API で様々な企業とつながることによって、金融と FinTech 業界の両者の間で、ユーザーの意思によってユーザーの情報が共有されることになる。その結果として、何らかの情報が金融機関からユーザー、また、FinTech 企業からユーザーに伝わるという現象が必然的に起こる。この部分について、ユーザーがどこまで正確に理解できるかは大きな問いであると思う。これは、API の接続を可能にしたことに伴って生まれる新しい課題である。新しい課題に直面することになったという認識を是非持っていただいて、分かり易い説明をユーザーに対して行うということ、個々の金融機関、個々の FinTech 企業において是非やっていただきたいと思う。
- 英国の Open Banking Standard では、Independent Authority という独立機関を作って消費者に対してインフォームドコンセントを確保するという非常に重要なアジェンダがある。自らのデータがどのように使われているのかを広く国民に理解いただき、安心して API をご利用いただける素地を FinTech 業界としても作っていかねばならないと考えている。

- これまでは、セキュリティや制度をどう作っていくか、何が必要なのかという議論をしてきたが、ここにきて、どうユーザーに周知していこうかというフェーズに移ってきたことは、ある意味で関係者のコンセンサスが得られるようなかたちで進んできたことの証左であろう。今後、ユーザーにどのように周知していくのか、どのように実際に使っていただくのかについては、非常に大きなテーマであり、関係者で協力しながら検討していく必要がある。

以 上